

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
 ☆幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
 ☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第46号 2006年8月4日(金)

発行：歴史資料ネットワーク(神戸大学文学部内)



▲史料ネットワークショップ(2006年6月18日撮影)

■□■目 次■□■

巻頭言

奥村 弘・・・2

◆◇総会・ワークショップ特集◇◆

2006年歴史資料ネットワーク総会・
 水損史料保全ワークショップ「よみがえ
 れ水損史料～水害に備えて」
 総会の記録 加藤宏文・・・4
 参考資料・・・・・・・・・・6
 ワークショップの記録・・・
 松下 正和・・・20
 参加者の感想・・・・・・・・23

兵庫区歴史講演会「ひょうごの寺町」

報告1 「中世兵庫の寺院と宗教」
 森田竜雄・・・24
 報告2 「近世兵庫の寺院とまちの
 人々」 河野未央・・・26

「2006年7月梅雨前線豪雨」被災地
 における歴史資料保全のお願い・・・27

巻頭言

11 年目の史料ネット

歴史資料ネットワーク代表委員 奥村 弘

歴史資料ネットワークは、阪神淡路大震災以来、大規模な自然災害と向かい合いながら活動を進めてきました。2004年からは、大水害での水損史料についても対応を進めています。また昨年度の活動記録を読み返してみますと、日本各地で自然災害から地域遺産を守るための独自の取り組みが進んでおり、それに史料ネットが積極的に関わっていることがわかります。

それに対応して私たちの経験に基づいた歴史遺産保全の考え方や取り組みを伝える機会も増えており、私自身も昨年、山形、東京、名古屋におじゃまして、講演やワークショップを行わせていただきました。また事務局の方にも、静岡から関係者が来訪されたり、各地からの問い合わせも寄せられています。

11年前にはじめた取り組みがこのような形で全国的に展開していくことになるとは、当時予想もしていなかったことです。自然災害への関心が拡大する中で、私たちの活動が広がり、自然災害時だけでなく、日頃の地域遺産保全活用に対する関心を呼び起こすようになっていきます。自然災害のみならず、過疎や再開発、自治体のリストラ等の中で、地域遺産の保全が困難となっている現代社会の中で、ささやかな活動ですが、私たちの取り組みの持つ社会的意味は大きくなっていると感じています。

歴史資料ネットワークは、6月18日、総会を終えました。新たな運営委員会は、従来の委員に加え、大阪歴史学会、大阪歴史科学研究協議会から若い世代の方々が参加しています。史料ネットは災害対応組織だけに、その経験を一般的に語ることは難しい側面がありますが、若い委員や大学院生、史料ネットを支えてくれる市民や歴史関係者の方々と共に、もう一度これまでの活動のもつ意味を確認しながら、必ず起こる大地震への対応も進めていきたいと考えております。

このような視点から、今年度は、水損史料の保全についての具体的な方法と、史料保全を市民、研究者、行政が協力していっていくことの意味についてまとめた出版物を刊行予定です。また大学間の「競争」で分断されがちな、若手の

歴史関係者のコミュニティーを活性化させるために、総会後のワークショップとして好評だった水損史料の保全について出前講習会を、神戸大学、大阪大学、大阪市立大学で行う予定にしております。

阪神淡路大震災後に保全した史料の保存及び活用問題は、本年度もなお継続した課題です。保全後10年以上の年月が経つ現在も、市民のみなさんのボランティアで基礎整理を進めている状況です。また自治体等に保存されている史料も十分活用しうる状況になっていないものが少なくありません。本年度は、事務局保全史料の整理に区切りをつけるたいと考えています。また10年を経て、保全した史料の現状を把握するとともに、保全史料群からわかった新たな歴史像を地域の皆様に市民講演会等の形でお伝えすることを計画しております。

一昨年度以来の兵庫県、京都府の水害への対応で、史料ネットの財政は厳しくなっており、災害対応用の基金もほぼ半分になっています。会運営の基礎を強め、歴史資料の保全活用を進めていくために、現在、会員、サポーターの拡大を進めております。御協力のほどよろしくお願いいたします。

(おくむら・ひろし 史料ネット代表委員)

寄贈図書一覧

・地方史研究協議会『地方史研究』No.318～321

2006 年度 史料ネット総会

【総会の記録】

- ・ 日時 2006年6月18日(日) 午前10時半～
- ・ 場所 西宮市大学交流センター 講義室1 (西宮市北口町1-2 アクタ西宮東会館6階)
- ・ 参加者: 10名、議長委任: 63名

歴史資料ネットワーク(以下、史料ネット)副代表の藤田明良氏よりの開会の辞の後、議長として個人会員より河島真氏が選出されました。

次に会員数等の報告の後、議案の審議に入りました。史料ネット事務局長の松下正和氏が2005年度活動報告(第1号議案、参考資料参照)を行いました。若干の事項の補充が行われたのち、松下氏に対し、2005年度は災害が起こっていない地域でネットが結成されるという動きがあったが、同様の動きは今後もあるであろうか、各地のネットを見てきた立場から展望についてコメントが欲しい、との質問がありました。これに答えて松下氏が各地における動きを紹介しました。例えば岡山では大学が中心となってセミナーを開催し、その後県の記録資料館ができ、大学と文書館が一緒になって災害前から動かなければならないという気運が高まっている、福島では以前から歴史資料館の職員の方が災害に遭う前にネットをつくりたいという考えを表明しておられた、これは行政の中からわき起こってきた動きで大変注目される、しかし行政、歴史資料館が指定管理者制度の導入を巡って揺れている状況である、愛知では博物館協会の研修会に(松下氏らを)呼んでいただき、史料ネットの活動の経験・成果等を報告させていただく機会をつくられた、山形では東北芸術工科大学を中心に動きが起り、新潟との連携がつけられている、など。

続いて、運営委員会への参加率の低下、本総会への出席者の少なさ、これらの事態をどう考えるか、これらは最近の若手の関わりのなさにつながっているのではないか、という質問が出されました。これについては、運営委員については、改善せねばならない、としたうえでメンバーが極端な多忙化に見舞われたりで要因で一堂に会し得ないことがあったと状況説明をしました。また、資料の救出など現場での活動の担い手という点ではゆっくりではあるが少しずつ下の世代にひろがってきている、さらに若い世代へ広げていくために工夫が必要と思われる、との回答がありました。これに加えるかたちで、40代の大学人は学内で多忙化し、身動きがとれなくなっている。30代以下の層は大学・博物館等の専門職の仕事がなく、非常勤の仕事をしており、安定せず苦しんでいる、と状況説明の補足がありました。また、大学院生が大学外で活動しにくいという状況になっており、大学の枠にとられないネットワーク・活動を考えていかなくてはならない、このような状況に対し、水損資料ワークショップを出前でいい、活動の成果から院生・学生に対し普及する活動を考えている、これにより活動の裾野を広げたいとのコメントが追加されました。

さらに、開催された市民講座等についてはもっと積極的に評価しておくべきではないか、との意見がありました。

次に2005年度決算報告が、一般会計、緊急対応基金について行われました(第2号議案、参考資料参照)。質問に答えて神戸市からの助成金について、2003年度に交付

決定されたものの実際の交付がこちらの2005年度にあたっていたものであると説明がなされました。

ニュースレターの印刷・製本費用が安価である理由は何か、と質問がありました。これに対しては、印刷は大学の機材を使わせてもらっているため実質用紙代のみである、製本は、事務局員以外に、院生・学生のアルバイトに手伝ってもらっており、この費用は郵送の費用に計上している、また、郵送費もメール便での発送に切り替えていることで軽減されている、との回答がなされました。

質問に答える形で学会会員の会費納入状況の修正がなされました（第3号議案、参考資料参照）。そして最後に、年度の切り替わり時期の収入（会費納入）・支出について補足説明がなされました。

質問終了後、会計監査委員河島真氏より会計監査報告がなされました。複数存在する預金通帳をできるだけ整理・統合すべきだとの監査意見が付されました。

活動報告と、決算報告・会計監査のそれぞれについて、会場からの拍手により承認されました。

引き続き、2006年度の活動方針案が事務局長の松下氏より提示されました（第4号議案、参考資料参照）。会場からは歴史講座のアイデアや予定について質問がありました。これに対しては、阪神淡路大震災のときの救出資料で、所蔵者が自治体に寄贈・寄託を希望しているにもかかわらず、自治体の体制不備等でうまくいっていない、という事例がある、この資料を活かした歴史講座の企画を検討中である、と回答がなされました。

また、市民講座ではないが、各大学へ出前をしての水損資料ワークショップを行うなど活動を積極化したい、歴史講座も充実させていきたいとの表明がなされました。

2004年台風23号の被災地の但馬・丹後地域で実施する水損資料関連の企画が必要である、との意見が出されました。

有償ボランティアの導入を検討することについて、救出資料の量と時間との関係、お金を寄せていただいている趣旨、リーダーの負担と役割などの点から補足説明がなされました。これについては2006年度の運営委員会の議論次第で年度中の実施もあるとされました。

他の重点課題として、特に人と防災未来センターの再編（資料室の移転を伴う）計画問題、博物館・資料館の指定管理者制度問題（職業として長期にわたり地域の歴史文化を最も基礎で支える人材は存在し得ない、歴史資料の保全と活用も難しい）について取り組むことの補足説明がなされました。

質問終了後、総会に提出された委任状に記された意見・要望について紹介がなされました。史料ネットの過去のレジュメ・資料がほしいという要望については、事務局に保管されているものについては、コピーしてお譲りしたいとこたえられました。永久会員制度の導入の要望については、今後検討していくことになりました。

続いて2006年度予算案（第5号議案、参考資料参照）が事務局長の松下氏より提示されました。会場より個人会員会費の口数化の提案がなされ、今後検討していくことになりました。数値修正・項目名変更の提案があった後、2006年度の活動方針案と予算案が会場からの拍手により承認されました。

最後に、2006年度の運営委員・会計監査委員の選出が行われました。各学会よりの現委員が紹介された後、個人会員からの運営委員として藤田明良氏・加藤宏文が選出され、会計監査委員として個人会員から山田修士氏・学生会員から添田仁氏が選出され、承認されました。閉会の辞を史料ネット代表の奥村弘氏が述べ、活発な質疑が行われた総会は終了しました。

（以上文責、加藤宏文）

2005 年度活動報告

1. 被災史料の整理や被災地での調査活動

事務局保管の被災資料整理は、院生・学生・市民などのボランティアによって進められた。神戸大学では計6回の整理が実施され、のべ37人が参加した。2005年度は、ひきつづき2004年台風23号による水損史料整理を行った。状態の悪い日高町T家襖の下張りはがしを優先し、

その後返却の期限が迫っている出石区有文書の整理に着手した。出石区有文書は、安土城考古博物館・兵庫県埋蔵文化財調査事務

第27回：2005年6月11日 参加者3名（日高町T家襖下張りはがし）
第28回： 年7月9日 参加者5名（日高町T家襖下張りはがし）
第29回： 年8月21日 参加者1名（日高町T家襖下張りはがし）
第30回：2006年2月23日 参加者11名（出石町H区有文書固着展開）
第31回： 年4月3日 参加者10名（出石町H区有文書固着展開）
第32回： 年5月13日 参加者7名（出石町H区有文書固着展開）
（第27回は2004年度）

所魚住分館・神戸市埋蔵文化財センターにて真空凍結乾燥され、フリーズドライ後の料紙の一部が固着していたため、展開を行った。4/17現在14箱分の固着展開が終了している。

阪神・淡路大震災での被災資料（中田樽丸文書）整理を行うことはできなかったが、乾燥済み水損史料の整理を行うことで、新たに水損した襖の下張りはがしや、フリーズドライ後の固着展開などのノウハウを蓄積することができた。

また、2004年台風23号で被災した兵庫県日高町のT家（2004年にレスキューした同町T家とは別）から浸水した蔵の解体に伴うレスキュー要請の連絡があり、但馬・国府国分寺館と連携して蔵内の近世・近代史料をレスキューした。史料は現在、同館で保管していただいております、寄贈先を斡旋中である。

2. 市民や自治体との連携を重視した地域史研究や地域遺産保存・活用の取り組み

主催◎、共催○、後援●、参加△ 企画

「シリーズ 歴史遺産を考える」

◎中世市民講座「神戸源平シンポジウム 源平合戦―伝承された戦いの虚実」

2005年9月25日（日）13時～16時 @神戸市水道局たちばな研修センター多目的ホール
参加約300名

スライド：山本陽一郎（神戸大学大学院生）「神戸源平史跡の今昔物語」、基調講演：川合康（東京都立大学）「源平合戦の虚像を剥ぐ―一生田森・一の谷合戦を中心に―」、パネルディスカッション「内乱史研究の最前線―武士、伝承、地域社会―」：川合康・高橋昌明（神戸大学）・源健一郎（四天王寺国際仏教大学）、コーディネーター：市沢哲（神戸大学）・藤田明良（天理大学）、主催＝歴史資料ネットワーク・兵庫区民まちづくり会議・兵庫区役所

今年度も年4回の歴史講座を開催することができなかった。しかし、中世市民講座は大盛況であり、それをもとにしたブックレット出版企画が立ち上がり2006年度内に出版予定である。

近年、文化財行政部門にも導入が急速に進んでいる指定管理者制度についての情報収集を行った。とりわけ、芦屋市立美術館の「直営」方式への移行に関する現状と課題について、博物館と、受け皿となるNPO芦屋ミュージアム・マネジメントの双方のメンバーを交えて勉強会を行った。

「シリーズ 歴史遺産を考える」以外の主催◎、共催○、後援●、参加△ 企画

●第7回「火垂るの墓を歩く会」

2005年8月7日・9日 9時半～12時 主催＝「火垂るの墓を歩く会」実行委員会

●神戸大空襲について語ろう～内橋克人氏講演会～

2005年8月20日（土）13時～15時半 @ラッセルホール2Fブランチ

※同時開催「写真で見る神戸大空襲一戦後60年記念パネル展」8/17（水）～20（土）9時～18時

会場 神戸市教育会館1階ロビー 主催＝神戸空襲を記録する会

●兵庫区歴史講演会「ひょうごの寺町」

2006年2月12日（日）14時～16時 @柳原蛭子神社 約100名参加

報告：森田竜雄「中世兵庫の寺院と宗教」（神戸大学文学部地域連携センター）、河野未央（史料ネット）「近世兵庫の寺院とまちの人々」、主催＝兵庫区民まちづくり会議、兵庫区役所

●ひなまつり@郷町館～お雛さまとカルタ・すごろく～

2006年2月28日～3月5日 10時～17時 @伊丹郷町館（旧岡田家酒造）、

内容：明治・大正・昭和の雛飾り展、カルタ・すごろく展、南京桃の展示即売（4、5日10時～16時）、かつての伊丹の風景写真パネル展、映画「まもろう伊丹の文化財」上映（4日13時～13時半）、郷町から大鹿まで、ミニ史跡散策と講演会（4日13時半～15時45分）

主催＝伊丹市文化財保存協会・伊丹古文書を読む会

また、今年度からの新たな試みとして、神戸史学会との共同企画「地域史卒論報告会」を開催することにした。これは、大学院には進学せず一般企業などへ就職し、かつ主に兵庫県をフィールドとする地域史を卒論のテーマにした学生が市民の前で報告を行うという企画で、歴史系の大学で勉強した学生が、社会に出た後も地域遺産や史料を守る活動を続けるきっかけづくりを目的としている。ただ、多くの大学からの参加と、大学院進学者以外の卒業生の参加が少なかったという課題を残した。

さらに、下記の催しに協力を行った。

◎「歴史系博物館と指定管理者制度」勉強会

2005年12月18日（日）13時～17時@芦屋市立美術館 参加15名

報告：明尾圭造（芦屋市立美術館）「芦屋市立美術館の現状と課題」、コメント：河崎晃一（芦屋市立美術館）、佐々木和子（神戸大学文学部地域連携センター）、大国正美（史料ネット）、森下裕之（NPO法人芦屋ミュージアム・マネジメント）

◎「地域史卒論報告会」

2006年3月5日（日）13～17時@六甲道勤労市民センター 参加30名

報告：安藤美保（神戸大学）「兵庫津・御馳走場の空間構造—宝暦度の朝鮮通信使来朝史料を中心として—」、内田美咲（神戸大学）「伊丹酒造家小西家の経営構造—酒造業・大名貸・江戸下り酒問屋を軸に—」、森本泰弘（神戸大学）「都市青年会と町運営の変容過程—姫路市を事例として—」

主催＝歴史資料ネットワーク・神戸史学会、後援＝神戸大学文学部地域連携センター

3. 震災記録保存と地域資料保存

2005年6月18日の総会に合わせてシンポジウム「風水害から歴史資料を守る」を開催し、史料ネットが2004年度から本格的にスタートさせた風水害への対応について、福井水害と台風23号を例に、活動報告を行った。

また、第4回・第5回「阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」に参加した。

さらに今年度も「シンポジウム地域資料の保存と活用を考える」実行委員会に協力し、第5回から第7回までの準備研究会と、2005年12月10日に行われた拡大研究会を大阪歴史科学協議会・大阪歴史学会・(財)公害地域再生センター(あおぞら財団)・NPO西山卯三記念すまい・まちづくり文庫と共催した。

主催◎、共催○、後援●、参加△ 企画

◎シンポジウム「風水害から歴史資料を守る」

2005年6月18日(土)13時～16時45分 @尼崎市立小田公民館 参加約50名

報告:多仁照廣(福井史料ネットワーク)「福井史料ネットワークの活動」、木村修二(神戸大学文学部地域連携センター)「台風23号による被災資料調査・救出活動について」、河野未央(史料ネット)「台風23号による水損資料の修復について」

コメント:前田喜一(但馬史研究会)、小寺誠(豊岡市教育委員会)、加藤晃(舞鶴地方史研究会)、吉岡博之(舞鶴市教育委員会)、プレゼン:富澤孝雄(京丹後市ふるさと歴史研究会)

コーディネーター:松下正和(史料ネット)

○「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」第5回準備研究会

テーマ 大阪府内における行政文書の保存・活用の現状—東大阪市などの活動を手がかりに—

2005年7月11日(月)18時半～20時半 @ (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)

報告:佐藤啓二(東大阪市 人権文化部 文化国際課 市史史料室)、主催=地域資料シンポ実行委員会

△第4回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会

2005年10月3日(月)13時半～16時半 @人と防災未来センター 参加23名

報告:深井純一(立命館大学)「北但馬震災関連資料の保存と収集経過について」、山口一史(ひょうご・まち・くらし研究所)「人防資料室を利用して」、「人と防災未来センター資料室」の取組から他

主催=神戸大学文学部地域連携センター

○「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」第6回準備研究会

テーマ バーチャル富松城歴史博物館を通じたまちづくり活動

2005年10月13日(木)18時半～20時半 @ (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)

報告:善見壽男(バーチャル富松城歴史博物館館長)、村井良介(神戸大学文学部地域連携センター)

主催=地域資料シンポ実行委員会

△シンポジウム:新潟県中越地震と文化財・歴史資料—1年間のとりくみ—

2005年12月10日(土)12時～17時 @人文法経済学部棟大会議室(F棟5階)

基調報告:奥村弘「災害と地域歴史遺産—10年間の取り組み—」、河野未央(史料ネット事務局)「水害からの資料保全活動について—2004年の台風23号被害を中心に」、佐々木和子(神戸大学文学部地域連携センター)「震災資料のアーカイブ構築について—兵庫県事例から」他

主催=新潟大学人文学部地域文化連携センター

○「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」拡大研究会「地域資料活用のための情報ネットワークの現状と課題—資料情報・地域史研究情報の交流をめざして—」

2005年12月10日(土) @東淀川勤労者センター

問題提起: 地域資料シンポ実行委員会「資料情報・地域史研究情報のネットワーク化のために」

報告: 安藤正人(国文学研究資料館)「地域資料の活用拡大のための課題について」

コメント: 塚田孝(大阪市立大学)「地域史研究の視点から」、和田義久(枚方市教育委員会)「資料保存機関の立場から」

主催=地域資料シンポ実行委員会

△第5回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会

2006年1月10日(火) @人と防災未来センター 参加16名

報告: 松下正和(史料ネット)「丹波の災害史」、水本有香(人と防災未来センター)・佐々木和子(神戸大学文学部地域連携センター)「震災資料の今—震災資料の共有にむけて」

主催=神戸大学文学部地域連携センター

○「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」第7回準備研究会

テーマ: 「近畿圏の自治体における公文書の管理と保存 全史料協近畿部会公文書研究会のアンケート結果から」

2006年2月17日(金) 18時半~20時半 @あおぞら財団

報告: 平塚詩穂(箕面市総務部総務課)

主催=地域資料シンポ実行委員会

4. 災害対策

2005年9月に発生した台風14号への対策のために、災害発生直後より情報収集にあたりるとともに、主に九州の被災地の文化財関係機関・報道機関・ボランティアセンターに対して被災資料の現状確認・保全依頼のFAXを行った。特に宮崎での被害に対して、史料ネットは10月1日に宮崎市入りし、被災地の巡回調査と、自治体・大学関係者などと、北方町・高岡町・椎葉村の被害状況報告会を行った。その後、地元の文化財担当者を中心に宮崎史料ネットが結成された(代表=若山浩章@宮崎地域史研究会)。史料ネットでは、現地と連絡を密に取り合いながら、その活動を支援し、メーリングリストの立ち上げ、募金の呼びかけなどを行った。集まった募金33,383円を宮崎ネットに寄付した。熊本には、12月3日に現地入りし、熊本史学会にて史料ネット活動についての報告を行い、水損史料の保全活動への理解を求めた。

また、各地のネットワークとも協力し、福井や新潟へのシンポジウムに参加した。

2005年度は、岡山、福島、愛知、山形など各地で大規模災害に遭う前にネットワーク化をはかる動きが多く見られたのが特徴的であった。史料ネットではこれらの「予防ネット」とも連絡を密に取り合い、シンポジウムなどの会に参加、提言を行った。

全史料協研修会、「歴史文化資産のリスクマネジメントとネットワークを考える」シンポジウム、世界考古学会議などにも参加し、文献史学の研究者や博物館・美術館・文書館などの学芸員・アーキビストや考古学者などとともに、被災資料救出活動や日常的な資料保全のためのさらなるネットワーク作りを行った。

△「史料の被災と救済・保存」シンポジウム

2005年6月25日(土) 13時半～16時半 @敦賀短期大学 129号教室

基調講演：松浦義則(福井史料ネットワーク代表)「2004年7月福井水害による史料被災と救済・保存」、パネルディスカッション「史料の被災と救済・保存」：松浦義則(福井史料ネットワーク代表)・尾立和則(京都造形芸術大学)・長野栄俊(福井史料ネットワーク)・松下正和(史料ネット)

主催＝福井史料ネットワーク

△史料ネットセミナー 災害から歴史遺産を守ろう！

2005年9月17日(土) 13時～17時 @岡山大学文学部

報告：松下正和(史料ネット)「歴史資料ネットワークの活動と展開1995-2005」、矢野香織(加悦町教育委員会)「史料ネットとできること、史料ネットとできることー参加と受け入れー」

△台風14号被災地の歴史資料・文化財被害について考える会

2005年10月1日(土) 13時～17時 @宮崎公立大学

報告：松下正和(史料ネット)「歴史資料ネットワークの活動と展開ー災害から歴史遺産を守ろうー」、小野信彦(北方町社会教育課)「北方町の歴史資料の被災状況」、今城正広(高岡町社会教育課)「高岡町の歴史資料の被災状況」

△地方史研究協議会第56回救済大会

2005年10月15日(土) @敦賀市万象プラザ

ポスター展示：松下正和(史料ネット)「2004年台風23号による水損歴史資料の保全・修復活動について」

△全史料協研修会福井大会

2005年11月9日(水) 13時～15時 @福井県国際交流会館

報告：松下正和(史料ネット)・白井哲哉(埼玉県立文書館)「資料保存のネットワーク」他

●シンポジウム「歴史文化資産のリスクマネジメントとネットワークを考える」

2005年11月19日(土) 10時～17時半 @東京都江戸東京博物館

報告：奥村弘(史料ネット)「大規模自然災害と地域歴史遺産保全ー歴史資料ネットワーク10年の歩みからー」他

主催＝歴史文化資産リスクマネジメントシンポジウム実行委員会

△岡山「史料ネット」講演会

2005年11月19日(土) @岡山県立記録資料館

報告：大国正美(史料ネット)「災害から歴史資料を守る試みー史料ネット運動の意義ー」

△熊本史学会 12月例会

2005年12月3日(土) 13時～17時 @熊本県立図書館

報告：松下正和(史料ネット)「歴史資料を風水害から守るー歴史資料ネットワークによる水濡れ史料のレスキュー・修復活動を例に」他

△世界考古学会議「文化財と災害」セッション

2006年1月15日(日) 9時20分～11時20分 @大阪歴史博物館

報告：松下正和(史料ネット)・中川正人(安土城考古博物館)・中村弘(兵庫県教育委員会)・中村大介(神戸市教育委員会)「台風被災史料の救出と保存処理」他

△平成17年度愛知県博物館協会美術部門・歴史部門研修会「災害に備える」

2006年2月24日(金) 13時半～17時 @愛知芸術文化センター

報告：奥村弘(史料ネット)「大規模自然災害と地域歴史遺産保全ー歴史資料ネットワーク10年の歩みからー」、松下正和(同)「水損史料の処置方法について」

△「人と文化遺産の保存継承ミーティング『地域文化遺産を災害から護る活動を知る』～文化財保存の日常から非日常までを包括した山形文化遺産保存継承ネットワーク(仮)の構築」

2006年3月25日(土) 13時半～17時半 @東北芸術工科大学

講演：矢田俊文(新潟大学)、奥村弘(史料ネット)、活動提起：手代木美穂氏

主催＝東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

5. 組織と運営

今年度の事務局は、5名の事務局員にて業務を行った。運営委員会は第33回（7月13日）から第45回（6月13日）までの計13回を開催した。

ただ、今年度の運営委員会は委員の出席率が悪く、改善の要望が委員より提出され、現状や対策について議論を行った。

2005年度 運営委員・事務局・会計監査委員一覧

＜運営委員会＞奥村弘（代表、神戸大学史学研究会）・藤田明良（副代表、個人委員からの選出）・松下正和（事務局長、京都民科歴史部会）・浅利文子（日本史研究会）・大国正美（神戸史学会）・加藤宏文（個人会員からの選出）・佐賀朝（大阪歴史科学協議会）・里井直彦（大阪歴史科学協議会）・添田仁（日本史研究会）・吉川潤（大阪歴史科学協議会）・吉村真樹子（大阪歴史学会）

＜事務局＞人見佐知子（事務局員）・河野未央（事務局員）・堀田昌宏（事務局員）・浅利文子（事務局員）・板垣貴志（事務局員）

＜会計監査委員＞辻川教・河島真

ホームページの整備をすすめ、各方面への情報発信の充実をはかった。ニュースレターは4回（2005年9月7日第42号、2006年2月17日第43号、2006年4月10日第44号、2006年5月19日第45号）発行した。メールニュースは24回を発信し（2006年5月7日段階）、現在409名が登録されている。

この1年間の書籍販売実績は、計180,940円（『神戸と平家』33冊、シンボ記録集5冊、総括集3冊、『平家と福原京の時代』82冊）の売り上げであった。4月30日段階の会員数は学会会員11団体、個人会員140名（昨年比0）、学生・院生会員21名（同比-2）、サポーター56名（同比+5）、ニュースレター購読81名（同比-5）の計309名（同比+1）であった。

また、各学会の会誌上や例会などにおいて、史料ネットの活動紹介やカンパ呼びかけの協力を賜った。詳細は下記の通りである。

	02年度	03年度	04年度	05年度
合計	218	274	308	309
個人	99	126	140	140
学生・院生	18	20	23	21
サポーター	29	45	51	56
ニュースレター	64	75	86	81
学会	8	8	8	11
新規入会		56	36	14
退会	0	2	3	5

＜各学会会員の協力＞

- ・松下正和「歴史通信 歴史資料ネットワークによる被災史料救出活動について—台風23号への対応を中心に」（『日本史研究』513号、2005年5月）
- ・2005年度日本史研究会全体会で風水害募金の呼びかけ（2005年10月）
- ・奥村弘「大規模自然災害と地域歴史遺産保全—歴史資料ネットワーク10年の歩みから（特集/災害と資料保存）」（『歴史評論』666号、2005年10月）
- ・「新刊案内 歴史資料ネットワーク(史料ネット)編『平家と福原京の時代』」（『地方史研究』318号、2005年12月）
- ・河野未央「台風23号により被災した歴史資料の救出・修復活動について」（『神戸大学史学年報』第20号、2005年）

2005 年度決算報告

(自 2005 年 5 月 1 日 至 2006 年 4 月 30 日)

◎2005 年度一般会計予算

◎2005 年度一般会計決算

収入の部		収入の部	
前年度繰越金	¥1,619,063	前年度繰越金	¥1,619,063
会費収入	¥984,000	会費収入	¥643,500
○学会会員	¥44,500	○学会会員	¥67,500
○個人会員 (一般)	¥655,000	○個人会員 (一般)	¥425,000
○個人会員 (学生)	¥57,500	○個人会員 (学生)	¥15,000
○サポーター	¥141,000	○サポーター	¥90,000
○ニュースレター	¥86,000	○ニュースレター	¥48,000
市民講座資料代	¥100,000	市民講座資料代	¥13,500
市民講座懇親会参加費	¥75,000	市民講座懇親会参加費	¥0
書籍・記録集・総括集売上	¥300,000	書籍・記録集・総括集売上	¥183,940
2003 年度会費未納分	¥41,000	2003 年度会費未納分	¥10,000
2004 年度会費未納分	¥296,000	2004 年度会費未納分	¥67,500
寄付金	¥0	寄付金	¥25,500
雑収入	¥0	雑収入	¥2,581
台風 14 号カンパ収入	¥0	台風 14 号カンパ収入	¥33,383
災害カンパ収入	¥0	災害カンパ収入	¥22,000
		神戸市からの助成	¥236,388
合計	¥3,415,063	合計	¥2,859,354

支出の部		支出の部	
専従事務局員人件費	¥950,000	専従事務局員人件費	¥0
事務局行動費	¥10,000	事務局行動費	¥130,000
委員会運営費	¥50,000	委員会運営費	¥14,990
事務局臨時経費	¥50,000	事務局臨時経費	¥9,900
総会諸経費	¥40,000	総会諸経費	¥78,648
市民講座諸経費	¥140,000	市民講座諸経費	¥28,008
その他企画諸経費	¥50,000	その他企画諸経費	¥37,737
史料整理交通費等	¥90,000	史料整理交通費等	¥5,510
ニュースレター印刷代	¥50,000	ニュースレター印刷代	¥1,950
ニュースレター郵送代	¥175,000	ニュースレター郵送代	¥146,222
総括集印刷代	¥20,000	総括集印刷代	¥0
図書雑誌購入費	¥250,000	図書雑誌購入費	¥301,225
備品消耗品代	¥100,000	備品消耗品代	¥450
ブックレット出版企画	¥100,000	ブックレット出版企画	¥26,000
福井カンパ支出	¥5,000	福井カンパ支出	¥0
新潟カンパ支出	¥40,000	新潟カンパ支出	¥0
台風 14 号カンパ支出	¥0	台風 14 号カンパ支出	¥33,383
緊急対応基金へ	¥350,000	緊急対応基金へ	¥586,388
予備費	¥925,063	次年度繰越金	¥1,458,943
合計	¥3,415,063	合計	¥2,859,354

主な勘定科目別の明細＜一般会計＞

(収入の部)

■会費収入

- ・ 学会会員…大阪歴史科学協議会・大阪歴史学会・京都民科歴史部会・神戸史学会・神戸女子大学史学会・神戸大学史学研究会・名古屋歴史科学研究会・日本史研究会・歴史科学協議会・歴史教育者協議会・歴史学研究会 11 学会。会費納入があったのは、大阪歴史学会（10,000 円）・名古屋歴史科学研究会（5,000 円）・日本史研究会（10,000 円）・歴史科学協議会（5,000 円）・歴史教育者協議会（5,000 円）・歴史学研究会（12,500 円）で計 67,500 円（2004 年度は 23,500 円）。
- ・ 今年度は、例年行っていた会計年度末の会費督促を行わなかったため、納入率が悪くなった。来年度は年度内最終号のニューズレターを会計年度末までに送付し、納入状況を会員に告知することで納入率を上げることに努めたい。

	02 会員	03 納入	納入率	03 新規	04 会員	04 納入	納入率	04 新規	05 会員	05 納入	納入率	05 新規	現会員数
学会	8	4	50.0%	0	8	3	37.5%	0	11	6	54.5%	0	11
個人(一般)	99	95	96.0%	27	126	88	69.8%	14	134	85	63.4%	6	140
個人(学生)	18	16	88.9%	2	20	6	30.0%	3	18	6	33.3%	3	21
サポーター	29	34	117.2%	16	45	37	82.2%	6	54	48	88.9%	2	56
ニューズレター	64	48	75.0%	11	75	43	57.3%	11	78	30	38.5%	3	81
合計	218	197		56	274	177		34	295	169		14	309

■市民講座資料代・市民講座懇親会参加費 今年度の市民講座は、中世講座（9/25 開催）のみ。兵庫区民まちづくり会議や兵庫区役所との共催で無料開催であったため、資料代収入はなし。懇親会参加費収入も得ることはできなかった。資料代収入は、シンポジウム（6/18）開催時のもの。

■書籍・記録集・総括集売上

- ・ 書籍…歴史資料ネットワーク編『神戸と平家』、『平家と福原京の時代』の売上
- ・ 記録集…阪神大震災対策歴史学会連絡会・歴史資料保全情報ネットワーク編『阪神・淡路大震災 歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム 記録集』1・2 の売上（1 部 500 円）
- ・ 総括集…『歴史資料ネットワーク活動報告書』の売上（1 部 3,000 円、印刷製本費・用紙代実費）

■寄付金 史料ネット会計への寄付。

■雑収入 取材協力費、利子など。

■台風 14 号カンパ収入 日本史研究会全体会で集まった募金。主に九州地方に被害をもたらした台風 14 号による被災資料保全活動にあてるため行ったもの。

■災害カンパ収入 特定の災害による被災資料保全活動のための募金以外のもの。

(支出の部)

■専従事務局員人件費 今年度も専従事務局員を確保することができず支出することはなかった。

■事務局行動費 「適任者がいない場合、事務局員（4 人を予定）に行動費を支給。5,000 円/月×12 ヶ月×4 人＝240,000 円」（2005 年度総会議案書、第 5 号議案で了承済み）の

方針に従い、専従のかわりに大学院生に事務局の仕事を依頼した。事務局員の行動費として1人5,000円/月を支給した。支給状況は、人見4月～7月分、河野4～1月分（8月分をのぞく）、堀田5～1月（8月分をのぞく）、浅利5～7月、板垣6,7月であった。

■委員会運営費 運営委員会の会場費

■総会諸経費 会場費、告知用はがき代、スタッフ昼食費など。遠方からの報告者が多かったために交通費がかさみ、予算をオーバーした。

■市民講座諸経費 中世講座のみの経費。会場費、告知用郵送代、講師謝礼、スタッフ昼食費など。

■その他企画諸経費 大阪歴史科学協議会5月例会会場費分担金、福井シンポ参加のための交通費、「歴史系博物館と指定管理者制度」勉強会、地域史卒論報告会に伴う経費。

■史料整理交通費 今年度の整理は5回と例年の半分に終わったため、使用した経費も少なかった。

■ニューズレター印刷代・郵送代 用紙の寄付があったため印刷代は少額ですんだ。郵送代は3号分。

■総括集印刷代 今年度は増刷なし。

■図書雑誌購入費 『神戸と平家』と『平家と福原京の時代』の追加購入。

■ブックレット出版企画 『平家と福原京の時代』の編集などにかかった経費

■福井カンパ支出 2005年度内に送金できず。6月7日に送金済み。

■新潟カンパ支出 2005年度内に送金できず。6月7日に送金済み。

■台風14号カンパ支出 日本史研究会全体会で集まった募金を、2005年台風14号を契機に成立した宮崎史料ネットに送金済み。

■緊急対応基金へ 「予備費から35万円を緊急対応基金に補填」とする2005年度総会議案書「第5号議案」の方針に従い、緊急対応基金へ繰り入れ。

主な勘定科目別の明細＜緊急対応基金＞

◎2005 年度基金予算

◎2005 年度基金決算

収入の部		収入の部	
前年度繰越金	¥206,022	前年度繰越金	¥206,022
台風23号関係	¥236,388	台風23号関係	¥236,388
○旅費助成（神戸市より）	¥236,388	○旅費助成（神戸市より）	¥236,388
一般会計より補填	¥350,000	一般会計より補填	¥350,000
寄付金	¥0	寄付金	¥14,120
		利子	¥12
合計	¥792,410	合計	¥806,542

支出の部		支出の部	
台風23号関係	¥210,000	台風23号関係	¥278,198
○旅費	¥100,000	○旅費	¥171,588
○水損史料修復消耗品	¥50,000	○水損史料修復消耗品	¥54,980
○水損史料搬送代	¥50,000	○水損史料搬送代	¥46,920
○食費補助	¥10,000	○食費補助	¥4,710
台風14号関係	¥0	台風14号関係	¥95,350
○旅費	¥0	○旅費	¥95,350
ボランティア保険	¥10,000	ボランティア保険	¥13,500

その他備品消耗品	¥50,000	その他備品消耗品	¥18,029
次年度繰越金	¥522,410	次年度繰越金	¥401,465
合計	¥792,410	合計	¥806,542

(収入の部)

■台風 23 号関係

- ・ 旅費助成…神戸市市民参画推進局市民活動支援課「協働と参画のプラットフォーム」から、史料ネットの台風 23 号被災地でのレスキュー活動に対して「パートナーシップ活動（＝被災地を支援する市民活動 A・B 活動）助成金」が給付された。

■一般会計より補填…一般会計予備費より 35 万円分を補填

(支出の部)

■台風 23 号関係

- ・ 旅費…但馬地域、真空凍結乾燥機保有施設までの電車賃・レンタカー代・ガソリン代など。
- ・ 水損史料修復消耗品…水損した史料を搬送するための段ボール、乾燥させるために使用したキッチンペーパー、殺菌のためのエタノール・霧吹き・ビニール袋・ジッパー付袋、作業の際のマスク・手袋など。
- ・ 水損史料搬送代…被災地（日高町）から史料ネット事務局までの搬送代、史料ネット事務局から真空凍結乾燥機保有施設（安土城考古博物館）までの搬送代など。
- ・ 食費補助…乾燥作業に従事していただいた学生さんへのお茶代・弁当代など

■台風 14 号関係

- ・ 旅費…被災地の宮崎、熊本までの飛行機代

■ボランティア保険 2006 年 3 月末日までのボランティア保険代

2005 年度監査報告

2006 年 6 月 17 日

2005年度会計監査報告

歴史資料ネットワーク会計監査委員

辻川 毅
河島 真

上記の監査委員により、歴史資料ネットワークの 2005 年度会計監査を実施いたしましたので、下記の通り報告いたします。

記

1. 監査実施日 2006 年 6 月 17 日
2. 監査対象期間 2005 年 5 月 1 日－2006 年 4 月 30 日
3. 監査の資料
 - ① 2005 年度決算報告書（一般会計及び緊急対応基金）
 - ② 一般会計通帳収支書類・緊急対応基金収支書類
 - ③ 手持現金及び手持現金出納簿
 - ④ 領収書
 - ⑤ 銀行預金通帳・郵便貯金通帳
 - ⑥ 郵便振替受払通知書及び払込取扱票

4. 監査の結果

上記資料を厳正に監査いたしました結果、証憑書類等も完備しており、歴史資料ネットワークの 2005 年度会計は、適正な出納及び処理が行われていることを確認しました。

5. 監査の意見

会計事務及び出納状況の把握が容易になるよう、複数の預貯金通帳を整理・統合する方が好ましいと考えます。

以 上

2006 年度活動方針

1. 被災史料の整理や被災地での調査活動

阪神・淡路大震災や2004年台風23号の際の救出活動で保全された歴史資料のうち、事務局保管の未整理分について、引き続き院生・学生・市民などによるボランティアを中心にした整理作業を進める。ただし、今年度は継続的な整理活動を行うために必要なボランティアリーダーへの謝礼や、有償ボランティアの導入について検討を行う。

また、被災地の自治体・大学・地域史研究団体などと協力しながら、過去に救出した被災史料の現状を把握し、今後の活用をはかる。

2. 市民や自治体との連携を重視した地域史研究や地域遺産保存・活用の取り組み

歴史研究の成果や地域遺産の活用に関する市民と研究者の交流の場としての「歴史講座」を今年度も実施する。今年度は、レスキューした文書の活用状況について検証する機会をもつ。また関係諸学会・大学や研究機関等とも連携し、地域史や史料保存・活用などの研究成果の蓄積をめざす。さらに、地域史の掘り起こしや地域遺産の活用をはじめ、地域の歴史・文化に関わるさまざまな市民・自治体の取り組みへの積極的な連携や支援を継続していく。2005年度よりスタートした「地域史卒論報告会」を引き続き開催する。

また博物館・資料館保存続問題や指定管理者制度導入など、地域資料をとりまく新たな状況に関する情報収集と対応につとめる。

3. 震災記録保存と地域資料保存

阪神・淡路大震災の資料保存と記録化・活用に関する研究会を今年度も引き続き開催し、「地域資料の保存と活用を考える」研究会に積極的に協力し、京都民科歴史部会のサブグループ「京都・滋賀における歴史資料の保存・活用研究会」とも連携するなど、関係団体や市民との連携と意見交流をはかる。

また人と防災未来センターをはじめ、災害史などこの分野に関する研究会や展示企画への参加や見学を行うとともに、資料保存の必要性について行政への働きかけを続ける。

今年度は史料ネット事務局に保存されている史料ネット活動に関する資料の整理を行う。

4. 災害対策

山陰・愛媛・宮城・福井・新潟・宮崎などの各史料（資料）ネットをはじめ、各地の関係機関・団体との交流と連携を継続する。また、東南海大地震のような大規模地震や、風水害対策の研究と準備を関西で引き続き行うとともに、京都における「動産文化財防災研究会」などの活動を援助する。各自治体の地域防災計画で地域遺産の保全をはかるなどのほたらきかけを行う。さらに、新たに大規模災害が発生した場合には、情報把握や関係機関・団体・研究者の連絡にあたり、臨機応変に緊急対応基金を活用して救援体制の立ち上げを積極的に支援する。

また2004年度以来対応にあたっている水害対策についてのまとめも行う。

5. 組織と運営

ホームページによる各方面への情報発信の充実を引き続きはかる。ニュースレターは定期刊行を維持するとともに、内容の充実に努める。また、メールニュースの配信を維持し、企画や活動のアウトラインをすばやく伝える。既発行の書籍・報告集については、引き続き頒布努力をおこなう。さらにニュースレターの購読者の会員加入を呼びかけるなど、会員やサポーターの拡大に積極的に取り組む。

関係諸学会との連携をより一層深め、企画の共催や後援を行い、その成果を各学会の誌面上に反映させる。

2006 年度予算

(自 2006 年 5 月 1 日 至 2007 年 4 月 30 日)

◎2006 年度 一般会計予算案

収入		支出	
前年度繰越金	¥1,458,943	事務局員行動費	¥390,000
会費収入	¥769,550	運営委員会運営費	¥40,000
○学会会員	¥68,500	事務局通信・発送費	¥10,000
○個人会員（一般）	¥490,000	総会・シンポ諸経費	¥50,000
○個人会員（学生）	¥36,750	市民講座諸経費	¥105,000
○サポーター	¥117,600	その他企画諸経費	¥50,000
○ニュースレター	¥56,700	史料整理経費	¥100,000
市民講座資料代	¥100,000	NL 印刷代	¥15,000
書籍・記録集・総括集売上	¥200,000	NL 郵送代	¥175,000
2003 年度会費未納分	¥27,500	NL 発送バイト代	¥80,000
2004 年度会費未納分	¥194,500	総括集印刷代	¥30,000
2005 年度会費未納分	¥397,000	図書雑誌購入費	¥300,000
		備品消耗品代	¥10,000
		ブックレット出版企画	¥50,000
		福井カンパ支出	¥5,000
		新潟カンパ支出	¥40,000
		緊急対応基金へ	¥100,000
		予備費	¥1,597,493
合計	¥3,147,493	合計	¥3,147,493

主な勘定科目別の明細＜一般会計＞

(収入の部)

■会費収入、2003・04・05 年度会費未納分

	年会費	03 未納数	03 未納額	04 未納数	04 未納額	05 未納数	05 未納額	06 予定数	06 予定額
学会		0	¥0	0	¥0	2	¥6,000	11	¥53,500
個人（一般）	¥5,000	2	¥10,000	22	¥110,000	51	¥255,000	140	¥700,000
個人（学生）	¥2,500	3	¥7,500	11	¥27,500	23	¥35,000	21	¥52,500
サポーター	¥3,000	2	¥6,000	13	¥39,000	32	¥69,000	56	¥168,000
ニュースレター	¥1,000	4	¥4,000	18	¥18,000	14	¥32,000	81	¥81,000
			¥27,500		¥194,500		¥365,500		¥1,055,000

・ 会費収入予算は、各予定額×平均納入率 70%を基準に計算。

(支出の部)

■事務局員行動費

- ・ 事務局員（3人を予定）に行動費を支給
1,0000 円／月×12 ヶ月×3 人=360,000 円
- ・ 2005 年度未払い分（5000 円×3 ヶ月×2 人=30,000 円）
- 運営委員会運営費 運営委員会会場費、運営委員への通信費など
- 通信・発送費 ニュースレター発送・運営委への通信費以外の郵送費、
- 総会・シンポ諸経費 総会・シンポに伴う告知はがき代、外部講師謝礼・交通費、会場費などの経費
- 市民講座諸経費 市民講座開催に伴う告知はがき代、外部講師謝礼・交通費、会場費、資料作成代などの経費
- 史料整理経費 レスキューした被災史料整理に従事するボランティアへの交通費・食費の補助など
- ニュースレター印刷代 用紙代、トナー代など。NL 平均 16 頁（B4 用紙 4 枚分）×4 号分×700 部の用紙。アスクル・マルチペーパースーパーセレクトホワイトスモース B 4・業務用パック 1 箱（500 枚×5 冊入、2500 円）4 箱分ほか。
- ニュースレター郵送代 35,000 円×5 回分（2005 年度最終号+2006 年度 4 号分）
- ニュースレター発送バイト代 @1000×4 時間×4 人×5 号分
- 図書雑誌購入費 『神戸と平家』、岩田ブックレット『平家と福原京の時代』購入費
- ブックレット出版企画 「源平シンポ」ブックレットと「風水害から歴史資料を守るシンポ」ブックレットの出版に関する経費
- 福井カンパ支出 福井史料ネットワークに未払いの 5,000 円分。ただし、2006 年 5 月■日に送金済み（2006 年 5 月 18 日第 44 回運営委員会により了承済み）
- 新潟カンパ支出 新潟歴史資料救済ネットワークに未払いの 4 万円分。ただし、2006 年 5 月■日に送金済み（2006 年 5 月 18 日第 44 回運営委員会により了承済み）
- 緊急対応基金へ 緊急対応基金への積み立てのため 10 万円を補填

◎2006 年度 緊急対応基金

収入	支出
前年度繰越金	¥401,465 予備費
一般会計より補填	¥100,000
合計	¥501,465 合計

2006 年度運営委員・会計監査委員

<運営委員>（五十音順）

- | | |
|-------------|--|
| ■ 大阪歴史科学協議会 | 佐賀 朝、立野 康志郎、中西 威晴
(2006 年 7 月 10 日運営委で承認) |
| ■ 大阪歴史学会 | 吉村 真樹子→中野 賢治(2006 年 7 月 10 日運営委で承認) |
| ■ 京都民科歴史部会 | 松下 正和 |
| ■ 神戸史学会 | 大国 正美 |
| ■ 神戸女子大学史学会 | (欠員) |
| ■ 神戸大学史学研究会 | 奥村 弘 |
| ■ 日本史研究会 | 浅利 文子 |
| ■ 個人会員 | 藤田 明良、加藤 宏文 |

<会計監査委員 2 名>

- 添田 仁、山田 修士

◆◇水損史料保全ワークショップ◇◆

よみがえれ水損史料～水害に備えて

【ワークショップの記録】

- ・ 日時 2006年6月18日（日）午後2時～
- ・ 場所 西宮市大学交流センター 講義室1（西宮市北口町1-2 アクタ西宮東会館6階）
- ・ 参加者：17名

趣旨説明

水害による被災史料は地震でのそれとは異なり、水損や汚損が加わります。また、水損自体は風水害だけではなく、消火の際やスプリンクラーの誤作動、配管の破損、排水施設の不具合などによっても日常的に発生します。しかし、水で濡れても修復可能な場合があるということが一般には十分に知られていないため、濡れてカビが生えたり、汚れたりすれば、地震での被災史料よりも早く処分されやすいのが、水害での被災史料の特徴です。2004年10月に発生した台風23号の被災地でも、水損したためにあきらめて廃棄してしまったケースを何度も見聞きました。そこで史料ネットは、水損史料のレスキュー方法や乾燥・修復方法についてより多くの方々に知っていただく必要を感じ、今回のワークショップ（講習会）「よみがえれ水損史料～水害に備えて」を企画いたしました。

史料ネットは、2004年の台風23号による水損史料を多数レスキューいたしました。その際に文化財修復の専門家の皆さんから、水濡れ史料をキッチンペーパーではさみながら吸水・乾燥させる方法を学びました。また、大量の水損・汚損史料については、滋賀県立安土城考古博物館・兵庫県埋蔵文化財調査事務所魚住分館・神戸市埋蔵文化財センターの真空凍結乾燥機にて乾燥していただきました。泥で汚れた史料が真空凍結乾燥された後には、史料の紙同士がくっつく場合が多いことが改めてわかりました。所蔵者の方へお返しする際に、読みやすくなるようにくっついた紙同士をはがす必要があります。このような紙同士をはがす方法（固着展開）についても、史料ネットは1年以上にわたる被災史料整理活動でノウハウを蓄積してきました。

これらのノウハウをより多くの皆さんに知っていただきたく、今年度は和紙でつくったサンプル史料を水損させ、参加者の皆さんがキッチンペーパーにて実際に吸水乾燥したり、固着した被災史料を展開する講習会を行いました。

松下報告

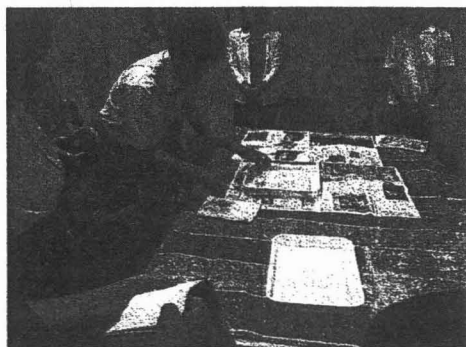
歴史資料ネットワークは、2004年の新潟・福井水害を契機として、地震だけではなく風水害による被災資料にも対応を行うこととなりました。特に2004

年10月に発生した台風23号で、被害の大きかった兵庫県（4市3町）・京都府域（4市7町）を中心に、被災地の文化財担当職員・地方史研究団体の会員・市民の方々の協力を得ながら、主に民間所蔵分の資料を中心に水損史料の確認調査を行いました。その結果、兵庫県の豊岡市1件、日高町（現豊岡市）2件、出石町（現豊岡市）2件、西脇市1件、京都府の京丹後市2件、舞鶴市3件の水損を確認しました。この他にも水損に伴う廃棄事例が数件あり、実際には相当数の水損や廃棄があったものと思われますが、史料ネットがレスキューできたのは、このうちの日高町森垣家・田尻家、出石町日野辺区有文書、舞鶴市三日市区有・松本家・野口家文書の6件でした。

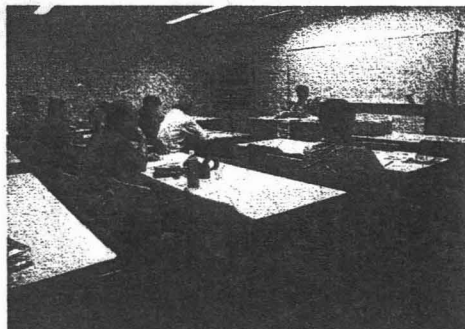
その他に、史料は水損していないが蔵の水損によるレスキュー依頼があり、日高町田尻家文書が但馬・国府国分寺館に、但東町今西家文書が日本・モンゴル民俗博物館にそれぞれ緊急保管されています。2006年6月30日現在、舞鶴市野口家・三日市区有・松本家文書と、日高町森垣家文書については所蔵者への返却が済んでいます。今後も固着展開が終了次第、順次所蔵者へ返却する予定です。

講演ではキッチンペーパーによる吸水乾燥と真空凍結乾燥について簡単に説明しました。水損程度の軽い史料については、キッチンペーパーをページの間にはさみこみ、水損汚損程度の激しい史料については、冷凍保管と真空凍結乾燥を行ったことを述べました。

キッチンペーパーでの乾燥はだれでも手軽に行える方法です。ただ、史料の間に挟んで圧力をかける際、史料にエンボス加工の跡が残ること、大量のペーパーを消費すること、手作業によるため多くの時間と人手を必要としその間に史料が劣化する可能性があることなどの課題を指摘しました。



▲水濡れ史料のサンプルを作成



▲松下講演の様子

冷凍保管や真空凍結乾燥は、史料の劣化・カビ・虫害や紙の変形を抑えるなどのメリットがある一方で、真空凍結乾燥機の保有機関が少ないことが問題となっています。

やはり、一番望ましいのは水損に遭わないことであり、そのためにも蔵の2階など高い場所での保管や、日頃からの虫干しにより史料の所在を把握しておくことが大切だと思います。不幸にして水損にあった場合は、濡れても廃棄することなく、陰干しや吸水乾燥方法を可能な限り行って欲しいこと、大量の史料が水損した場合は、お住まい

の地域の文化財担当部局か史料ネットに相談してほしいことをお願いいたしました。

講習会

ワークショップは、和紙で作ったサンプルの縦帳と横帳を水損させ、それをキッチンペーパーにより吸水乾燥する班と、実際の被災史料であり真空凍結乾燥済みの出石町日野辺区有文書を固着展開する班の二つに分かれて、順に実演と作業を行いました。

まず吸水乾燥のグループでは、台風23号の水損史料の乾燥作業でボランティアリーダーであった史料ネットの河野末央事務局員が、これまで史料ネットが行ってきた乾燥方法

について実演を行ったあと、参加者の皆さんに実際にキッチンペーパーの挟み込み作業を体験していただきました。その後に史料ネットが吸水乾燥技術について指導を受けていた尾立和則氏により、さらに効率的な「押し法」を披露していただきました。それは通常のように、冊子の紙と紙のすべての間に1枚ずつペーパーを挟み込む方法ではなく、何枚かの紙をまとめてペーパーを挟み吸水乾燥するというものでした。

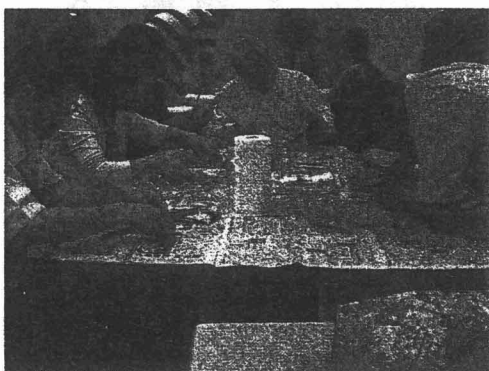
通常の方法では、①挟み込んだペーパー分だけ冊子がふくれあがり「背」に負担がかかること、②冊子の下の方に挟み込んだペーパーが水分を十分に吸水しきれず、結局は冊子が乾きにくく最悪のケースではカビが発生する可能性があること、③紙と紙のすべての間にペーパーを挟んでいくと、ページ数が多い場合挟み込みに時間がかかることなどの問題点が尾立氏より指摘されました。

次は固着展開のグループの説明に移りました。今回展開した区有文書は、近代の和紙と洋紙の文書の両方があり、それぞれを体験していただきました。運営委による実演の後、一般参加の

方と固着展開の経験者とがペアになって、くっついた紙の間にへらをさしこみながら慎重にはがしていただきました。途中、尾立氏によりさびたクリップの書類からの外し方について説明がありました。それによると、①さびたクリッ



▲キッチンペーパーでサンプルを吸水乾燥



▲日野辺区有文書を固着展開

ブやホッチキスをそのまま残しておく、紙にさびが移るなどの悪影響があるので、外せるのであれば外した方がよい、②外し方は、史料と平行方向にひきぬかず、クリップを上を起こして折り、史料と垂直方向に抜く、というものでした。その後、史料のまとまりがわかるようにこよりで綴じ直しました。

参加人数が少なかったのは残念でしたが、古文書や図書などの取扱にたずさわっている方々とノウハウを共有でき、さらには尾立氏のレクチャーによって適切な修復方法についての知見を一層深めることができ、非常に有意義な会だったと思います。参加者の感想については下記をご覧ください。

単に参加者を募る形のワークショップではなく、史料ネットは各大学などに外向く「出張講習」を行いたいと考えています。会員の皆さんからのご要望があれば参りますので遠慮なく事務局までお申し付けください。

(以上文責、松下正和)

参加者の感想（アンケートから）

- ・非常に分かりやすい説明でした（20代・女・学生）
- ・水害だけでなく水損は日常生活の中でも起きるのでそうした問題意識での講習はよかった（40代・男・会社員）
- ・実際に手にとって作業することが出来、大変ためになった（40代・男・会社員）
- ・実物やサンプルを目の前にして学ぶことができるのはやはりよい。最新のさらに進化した動向も見聞できた

(30代・男・教員)

- ・古文書の虫食いだらけの史料と近代（洋紙）との違いが少しだけ分かったような気がしました。水害の史料は始めてでしたので、こんな状態になるのかと思いました

(60代・女)

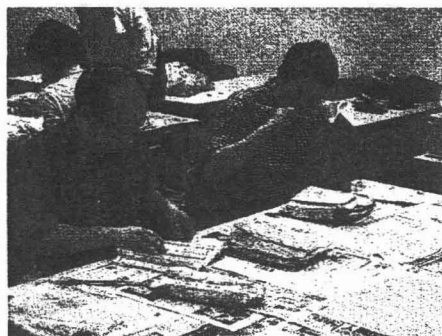
- ・水損史料の最新の扱い方を知ることができて非常にためになった

(20代・女・学生)

- ・河野さんのとじた部分のドロのすいだしのテクニックや尾立さんのまず1ページずつはさむことを優先するのではなくまとめて水をすいとるなど具体的なノウハウがありさらによかった（40代・男・会社員）
- ・実際に資料現物を使っでの講習は大変良い経験になりました

(50代・男・公務員)

- ・専門家のみに頼ることなく、我々でもノウハウさえ（+経験）知っていればある程度の手助けが出来ることを知ったことは微力ながら文化財レスキューに協力できるので良い機会を得られました（40代・男・会社員）
- ・今回行った水損史料ワークショップをシンポジウムなどと合わせてやってみたらどうでしょうか（20代・女・学生）
- ・更に研修（70代・男・無職）
- ・参加者が思ったほど多くなかったのは残念。また機会あるごとにやったらいいと思う（40代・男・会社員）



▲固着展開を体験する参加者

ひょうごの寺町

去る2006年2月12日（日）午後、柳原蛭子神社にて、兵庫区民まちづくり会議、兵庫区役所主催、歴史資料ネットワーク後援で、兵庫区歴史講演会「ひょうごの寺町」が開催されました。この講演会には歴史資料ネットワークから河野未央と神戸大学文学部地域連携センターから森田竜雄氏が講演しました。参加者は、約100名と大変盛況でした。ここでは、二人の講演の内容を簡単に紹介したいと思います。

「中世兵庫の寺院と宗教」

森田竜雄（神戸大学文学部地域連携センター）

兵庫の「寺町」の景観は、近世初頭に作り出されたものと見られているが、それを構成する各寺院のほとんどは、中世以来の歴史を持つ寺院であり、また、この他にも兵庫には中世にさかのぼる歴史を持つ寺院が数多く存在する。「寺町」を生み出した前史として、中世兵庫における諸宗派の展開と寺院の成立について述べるのがここでの目的である。

まず「はじめに」として、古代からの港の所在地であるという兵庫の歴史的経緯を紹介した。ただし、古代～中世初期については、町場の様相はうかがえず、また、その頃の創立と伝える寺院はあるものの、史料上確認できないことも述べた。そして、鎌倉時代後期13世紀後半に町場が形成されたという文献史学・考古学の成果をふまえ、この時期に町の住民の共同体が形成されたことを推定し、同時代の制作になる『一遍聖絵』に登場する「兵庫の観音堂」を、共同体の結集の核としての「町の仏

堂」と位置づけた。その上で、こうした仏堂を中心とした、地域住民による浄土信仰や念仏信仰（旧仏教系のもの）を足がかりに、いわゆる鎌倉新仏教諸派が布教を進めていったと思われることを指摘し、その早い事例と考えられるものとして、やはり『一遍聖絵』に登場する「光明福寺」（廃）を挙げた。同寺は南北朝期、湊川合戦で戦死した楠木正成の供養が行われた「魚御堂」と同一の寺と考えられ、その宗派は不詳であるが、同じ頃関東で水陸交通の拠点に教線を展開したことで知られる浄土宗西山派ではないかと推定される。

ついで、これにやや遅れて兵庫に進出し、大きな勢力となったのが、西大寺流の律宗と時宗であると指摘し、以下のように述べた。律宗については、そのエポックとなったのは、弘安8年（1285）8月の西大寺叡尊の兵庫来訪であり、その際供養された石塔が、いわゆる「清盛塚」（弘安9年2月銘）ではないかといわれている。

る。一方、時宗については、開祖一
遍が正応2年(1289)に「兵庫の観
音堂」で亡くなり、兵庫の住民によ
りその側で葬送の上、廟が設けられ
ているが、正安3年(1301)、一遍
高弟(時宗二祖)他阿真教が十三回
忌法要を当地で行って以後、この地
が寺院(真光寺)として整備され、
改めて宗派としての進出が図られた
ものと思われる。同宗国阿派の薬仙
寺が兵庫を訪れた国阿(国阿派・靈
山派派祖)により天台宗から転宗し
たとされるのも、これよりやや下っ
た延文元年(1356)である。なお、
ここに挙げた両宗及び先述の光明福
寺=魚御堂の進出に関わっては、近
世には「千僧」と呼ばれ、兵庫津住
民の共同墓地となっていた地との関
わりが注目される。すなわち、元禄9
年(1696)の兵庫津絵図などを参考
にすると、真光寺(及びその前身の
「兵庫の観音堂」)とその斜め向い
にあった(移転前)「清盛塚」、及
び「清盛塚」の裏手付近にあったと
いわれる光明福寺は、いずれもここ
に程近く、薬仙寺に至ってはまさに
隣接している。思うに、この一帯は、
中世より町場の周縁部にあって、兵
庫住民の葬送の場となり、町の仏堂
が置かれていた兵庫の「聖地」であ
り、諸派はここに拠点を置いて住民
と関係を取り結んでいったのではな
からうか。そしてこの後、西大寺流
律宗は、室町時代までに兵庫に安養
寺(廃)、観音寺(廃)、能福寺
(現天台宗)の三つの直末寺を持っ
ており、少なくともこの頃までは優
勢を誇ったものと見られ、時宗は、
近世初頭、真光寺・薬仙寺の他に満
福寺と同寺支配の尼寺長楽寺(廃)、
また薬仙寺支配の尼寺慈光寺(廃)
が存在していたらしいことがわかる

ので、中世末には最大勢力であった
と見て良い。

また、上の両宗とはやや違った形
で一恐らく兵庫の支配に関わった公
武勢力との関係で—南北朝期を中心
に勢力をのばしたものとして、禪宗
を挙げた。禪宗については、まず、
当時の禅僧のもつ国際性(中国語の
能力)から、港町の禅宗寺院が国際
交流センターとしての役割を持って
いたことが指摘され、兵庫津では福
厳寺が室町幕府の迎賓館・外交出先
機関として機能していたことなどが
明らかにされていることを述べた。
これに加えて、ここでは特に「寺
町」というテーマに関連して、元禄9
年の兵庫津絵図の「寺町」部分には
福厳寺—法華宗久遠寺—龍昌寺

(廃)—範国寺と見えるが、このう
ち久遠寺の地はもと福厳寺の一部で
あったらしいことを指摘し、他の禪
宗寺院がいずれも臨済宗大覚派仏燈
流の僧を開基とすることから、僧侶
間の人的ネットワークのもとで寺院
が隣接して建てられ、「寺町」の景
観の基礎的な部分が作られた可能性
があることを述べた。

なお、この他、室町～戦国時代に
関わっては、西光寺(藤の寺)が北
風氏の菩提寺であり、久遠寺は正直
屋極井氏が法華宗一致派から本門派
への改宗に関与したと伝え、能福寺
は元龜3年(1572)に住職となった
一乗坊長盛法印が網屋南条家の出身
で、現在の寺地を南条家が寄進した
とされるなど、近世兵庫津で名の知
られた有力な家と深い関わりを持つ
寺院が見られるようになることなど
を述べる予定であったが、時間の都
合で割愛した。

(もりた・たつお/神戸大学文学部
地域連携研究員)

「近世兵庫の寺院とまちの人々」

河野 未央（歴史資料ネットワーク）

多くの寺がならぶ兵庫津の町並み。しかし、江戸時代において、兵庫津の寺と町の人々との関わりがどのようなものであったのか、という点についてまとめた分析は多くはありません。

そこで、今回の報告では、17～18世紀中葉における兵庫津の寺院について、主に以下の二つの点に注目し、基礎的な考察を行いました。ひとつは、尼崎藩の兵庫津支配との関わりの中で寺院はどのように支配を受け、組織されたのか、またどのような役割を果たしていたのか、という点で、もうひとつは、日常のくらしの中で、兵庫津寺院と町の人々はどのような関わりをもっていたのか、という点です。

ひとつめの点については、尼崎藩では元禄期、寺社統制が進んだものと考えられることを示しました。また兵庫津の寺院は、兵庫津寺院組織の世話役として「年行事中」が設定されていたこと、町の「五人組」のような組織（＝「組合」）が、寺院にもあり、こうした「組合」は宗派をこえて結成されていたことなどを紹介しました。さらに、宗門改・奉公人改・船改など尼崎藩が町方支配を行ううえで行った諸改め、あるいは触伝達などは、数ある兵庫津の寺院の中でも、特定の寺院が場所を提供していることなどを示しました。

ふたつめの点については、神社も含めた宗教施設での祭礼・祈祷などを中心に考察しました。例えば祈祷については、和田明神において、兵庫津に立ち寄った朝鮮通信使の無事の帰国を祈願したこと、あるいは兵

庫津の会所（岡方会所）普請完成により、能福寺に祈祷を依頼したことなどを紹介しながら、兵庫津の寺社が、人々の様々な要請に応じてきたことを示しました。しかし、その一方で、町の人々は、麻耶山から雨乞いの火を貰い受け、雨乞い行事を執り行っているなどの事例もみられ、必ずしもそのような要請に応える宗教施設が兵庫津内で完結するものではなかったことを指摘しました。

次に、遊興・観光・集い・葬送の場として登場する寺院を紹介しました。お花見をはじめ、稽古浄瑠璃・太平記講談の上演などが寺院で行われている例が数多いことをあげ、人々の憩い、あるいは娯楽の場として機能していたことを示しました。また、尼崎藩主も兵庫津に訪れたおりには、能福寺・久遠寺・福厳寺など観光名所を見物していたことを紹介しました。

最後に、尼崎藩主、あるいは兵庫津奉行やその家族など支配層が亡くなった場合、町の人々が亡くなった場合それぞれにおける寺院の対応について紹介しました。

史料の内容を紹介しただけの、やや雑駁な内容になってしまいましたが、会場の方々が熱心に聞いておられたこと、短い質疑の時間に、多くの質問が寄せられたことは印象的でした。史料的制約が大きいにもかかわらず、今後も兵庫のてらまちについての研究が深められることを期待しています。

（この・みお

／歴史資料ネットワーク）

2006 年 7 月 31 日

被災地文化財担当部局 各位

「2006 年 7 月梅雨前線豪雨」被災地の 歴史資料・文化財被害状況確認のお願い

このたびの豪雨により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

私たち、歴史資料ネットワーク（事務局・神戸大学文学部内）は、1995 年に発生した阪神・淡路大震災の被災地で、歴史資料をはじめとした文化遺産の救出・保全をおこなってきた、歴史研究者を中心としたボランティア団体です。私たちは、その際に、全国の歴史学会など関係団体から支援をうけて、自治体や市民と協力しながら、地域社会の民間資料の救出や文化財の被害調査などをおこなってきました。また、鳥取県西部地震や芸予地震・宮城地震や、2004 年の福井水害・台風 23 号の際にも被災地における被災歴史資料の保全・再生に取り組んでまいりました。

私たちがこのような活動を行ってきたのは、災害が起きるとそれを契機に家や蔵に古くから置かれていた歴史資料が破棄・処分されてしまうことがよくあるからです。これまでも、私たちが駆けつけた時にはすでに歴史資料が処分された後であったということが何度もありました。

家々にはさまざまな形で家の記録や地域の歴史を伝えるものが数多く残されています。しかし、今回の水害により長く伝えられてきた古い文書や記録などがなくなってしまうとすれば、それは家にとっても地域にとっても残念なことといわざるをえません。

なお、文化財に指定されているような著名なものだけが歴史資料ではありません。昔の人の暮らしぶりなど、地域の歴史を知る手がかりとなるものすべてが歴史資料です。具体的には、以下のようなものがあります。

- ◎古文書（くずした文字で和紙に書いたものなど）
- ◎古い本（和紙に書かれて冊子にしてあるものなど）
- ◎明治・大正・昭和の古い本・ノート・記録（手紙や日記など）・新聞・写真・絵
- ◎古いふすまや屏風（古文書が下貼りに使われている場合がよくあります）
- ◎自治会などの団体の記録や資料
- ◎農具、機織りや養蚕の道具、古い着物など、物づくりや生活のための道具など

これらのものは母屋や蔵、あるいはその中の箱やタンス、長持・行李などに収められています。一見すれば紙くずやゴミのようにみえるものでも、実際には貴重な歴史資料である場合がよくあります。また、水に濡れて廃棄処分の対象とみえる場合であっても、これらのものは捨てたり焼いたりせず大切に保管下さい。早急な処置によって、修復が可能な場合があります。

以下、ご家庭でも可能な応急処置・修復方法を記します。

◇◆やっではないけないこと◆◇

- 冊子を無理にこじあけないでください
- 天日やアイロンなどで急激に乾燥させないでください
- 濡れた紙を放置しないでください

とにかく捨てないでください！修復できるケースがあります。

◇◆応急措置の方法◆◇

被災後 48 から 72 時間を目安に救助してください（夏場はカビが生えやすくなります）。

電気や水道のライフラインの復旧状況が許す範囲内で、下記の対応をお願いいたします。

軽い水濡れの場合

- ・冊子状の場合、ページがはがれるようなら、キッチンペーパーを挟んで吸水処理を行います（但し、無理にこじ開けないでください）
- ・一紙もの場合、キッチンペーパーで挟んで吸水処理を行います。
- ・黴やカビに気をつけてください（殺菌のため消毒用エチルアルコールを噴霧するとよい）
- ・そのまま陰干しをしてください。

泥などで汚れている場合

- ・形を整えた後、そのままの状態でもニール袋に入れます。封はとくにせず、袋に資料名・レスキュー地点などを記入しておいてください。
- ・防カビのため史料を冷凍保存します（緊急措置としてご家庭の冷凍庫に保存しておいてください）

※専門処理機関で、真空凍結乾燥法や吸水乾燥法により乾燥させます。専門処理機関での処置については、下記史料ネットにお問い合わせください。

地域の歩みを伝える貴重な歴史資料を守る活動に何卒ご理解をいただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、ご所蔵の歴史資料の保管・整理などに困っておられる場合には、下記の所までご連絡下さい。

【連絡先】

歴史資料ネットワーク

（代表 奥村弘・神戸大学文学部教授）

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部内

電話&FAX 078-803-5565

URL : <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/>

e-mail : s-net@lit.kobe-u.ac.jp

史料ネット NEWS LETTER No.46 2006 年 8 月 4 日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565（開室時間 平日の午後 1 時～ 5 時）

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/> e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp